



広報無線塔の数

毎日、朝7時30分と夕方5時に市の行事などをお知らせする広報無線放送。朝の出勤、子供たちの帰宅の目安などにも利用されています。

この無線放送は皆さんの地域にある304の広報無線塔から流れていますが、この数は日本一です。無線は防災用に備えたもので、地震などにより停電した場合も、正確な情報が伝達できるように非常電源が備えられています。

また、昨年6月からは、エコー等による難聴対策として、火災以外の臨時放送に限り、304の受信局を2分割してそれぞれ1回ずつ放送するなどの工夫もされています。



鈴木孝一さん

岩松の水神に住む鈴木孝一さんは九十歳。二十五年前仕事の現役を退いてから、毎朝かりがね堤の清掃を行っています。「夏は五時、冬は七時に散歩がてらにしているだけ。それにしてごみの落ちていない日はないね」とマナーの向上を訴えます。鈴木さんにとってはよい運動にもなっているようで、目も耳もいたって丈夫。鈴木さんの手を煩わせないように、ごみの投げ捨てはやめましょう。

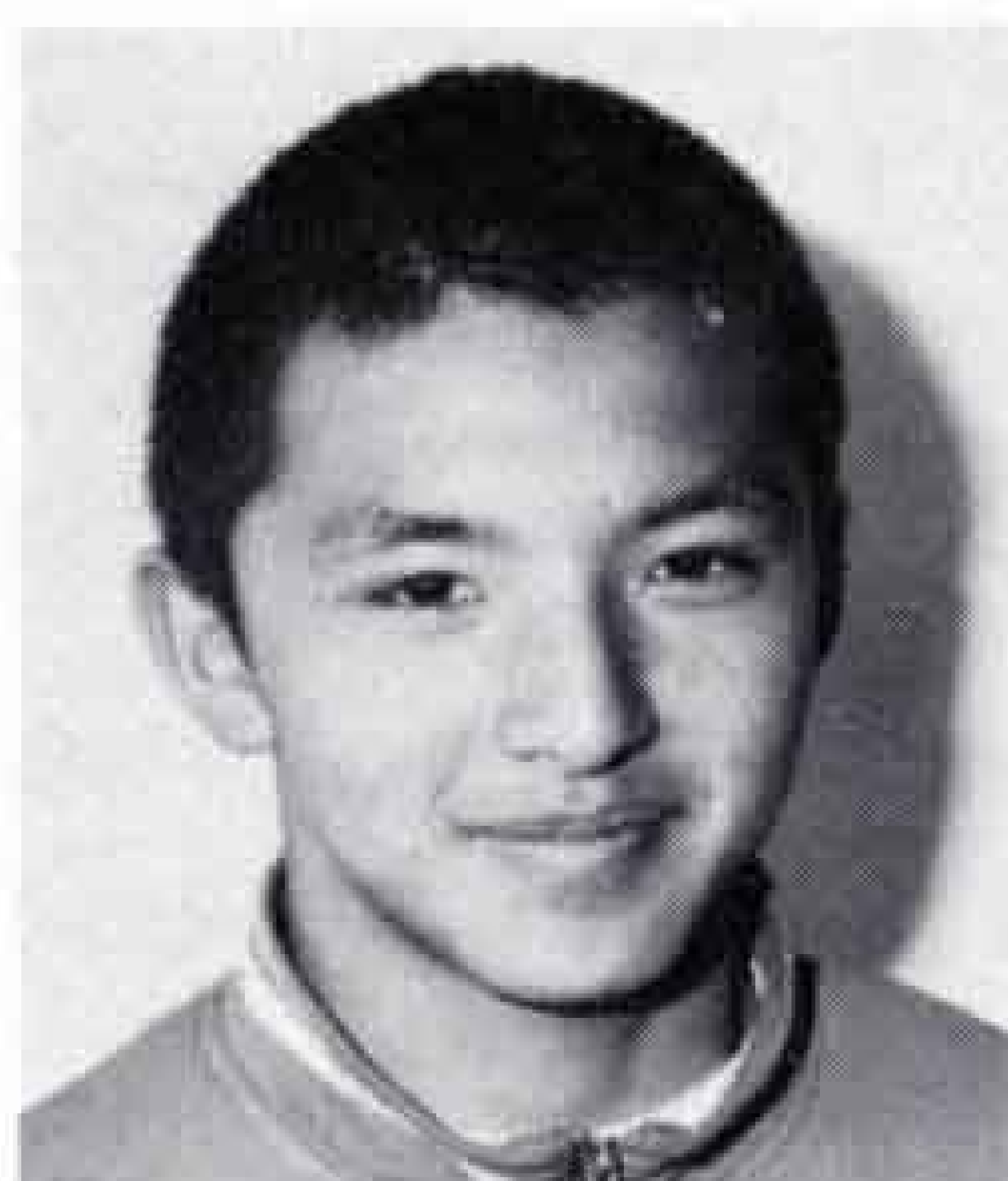
かりがね堤を毎朝
清掃するおじいさん

鈴木愛子さん(北滝川町)は、地域の公民館などでリフォーム教室の講師を務めています。リフォームは古着から帽子やバッグなどを作り出す創造的な作業。四月は、六十二年度の前田公民館の受講生とともに市役所の市民ギャラリーで作品展を開きます。鈴木さんは「作品にはお店で買えない温かさがありますよ」とリフォームを通して物の大切さを伝えます。

リフォームで
物の大切さを伝える



鈴木愛子さん



浦田雅芳君

浦田雅芳君(岳陽中三年)は三月二十六日から東京で行われた「第十一回全日本選抜中学サッカー大会」に東海選抜チーム(十六人)の一員として参加しました。東海選抜に市内の中学校から選ばれたのは初めての事です。ポジションはゴールキーパー。市内大会では、昨年夏の中体連から相手の得点を許さない鉄壁の守りを誇りました。日曜日に練習がなくてもボールをけるといふサッカーの虫。日焼けした顔が練習量を物語っていました。

サッカーの
東海選抜チームの一員に

長男の賢君(富士中一年)は二年間小太刀護身道を行った後、二年前から陸上の選手。身長百七十三センチと大柄で、二百斤の市内チャンピオンです。次男の匡君(富士第一小五年)と三男の互君(同三年)は、お父さんについて週一回練習を欠かさず、なかなかの腕前。武道のそもその始まりは、おじいさんの武夫



武道一家

渡辺敏亘さん一家(富士町)

小太刀護身道。聞きなれない人が多いかと思いますが、江戸時代から伝わる日本の武道です。今回は、親子三代、小太刀護身道を初めとした武道を愛好する渡辺敏亘さん一家におじゃましました。

小太刀護身道とは警察官の持っている警棒の武術。薄手のけいこ着に面をつけて行います。

渡辺敏亘さん(四十歳)は、静岡県に初めて小太刀護身道を広めた指導者です。空手と古武道が六段、柔道初段、その上、学生時代は抜刀道で日本一になったというつわもの。奥さんの容子さん(四十歳)も実業団のハンドボールで活躍したスポーツマンです。

そんな両親の間に生まれた三人の子供たちは、お父さんのパワーとお母さんの敏捷性を受け継ぎ、運動神経抜群です。

前列左から互君、匡君、賢君、後列左からかつさん、武夫さん、敏亘さん、容子さん



さん(七十三歳)。やはり柔道六段で、元氣そのもの。そして、子供たちの活躍が一番喜ぶのが、おばあちゃんのかつさん(六十六歳)。「子供たちは練習を始めてから、声が大きくなり、積極性がでたよ」と敏亘さん。渡辺家の旦那さんは、とてもにぎやかです。